



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomono-mori.net> <mailto:info@kodomono-mori.net>

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2019年9月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今年も、台風による大きな災害が発生しました。

被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

そんな気候の中でも、子どもたちが植えた“どんぐり”の木が大きく育ってくれています。

写真は、富山県「やまむろこども園」の子どもの森の間伐材で作られたウッドクラフト作品です。

子どもたちの記憶に残ってくれるでしょう。

(目次)

1. J P 子どもの森づくり運動 地域での活動レポート
2. J P 子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート
3. 事務局からのお知らせ

*「どんぐり博士の育苗日記」～2019年9月号～

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力

（公社）全国私立保育園連盟

（公社）国土緑化推進機構

（一社）日本森林インストラクター協会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

（株）実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

（公社）大谷保育協会

NPO法人C・C・C 富良野自然塾

NPO法人自然体験活動推進協議会

（一社）日本オート・キャンプ協会

保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動 地域での活動レポート（＊活動の詳細は、ホームページをご覧ください。）

1) 富山県「やまむろこども園」森を見守る活動

・日時：2019年9月9日(月) ・場所：JP子どもの森づくり運動植樹地（呉羽青少年自然の家隣接地）

・参加園児：30名 ・インストラクター：きんたろう倶楽部

「やまむろこども園」において、10年前に子どもたちが植えた“どんぐり”の木の間伐と下草刈りが行われました。間伐材はウッドクラフトの材料として活用し、子どもたちに木や森の大切さを意識づけます。「子どもの森」の活用方法として大変参考になりました。



2) 長野県「慈光幼稚園」植樹活動

・日時：2019年9月11日(水) ・場所：飯田女子短期大学敷地 ・参加園児：58名（年長組）

・協力：飯田女子短期大学 幼児教育学科 田中住幸准教授

「慈光幼稚園」さんでは、初めての植樹活動です。子どもたちが、園でペットボトルのポットで育てた“どんぐり”の苗木二本が、飯田女子短期大学の一面に植えられました。



2. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート（＊活動の詳細はホームページをご覧ください。）

1) 広島県「まごころ保育園」東北の“どんぐり”を見送る活動

・日時：2019年5月13日(月) ・場所：同園園庭 日本郵政グループ：長束郵便局 野村局長さん

広島県「まごころ保育園」から東北の“どんぐり”を見送る会のレポートが届きました。内海園長先生からは、「成長する間には、枯れてしまったのかな？と不安になることもありましたが、無事、今回見送る会を実施することができ、とても嬉しく思っています。」とのメッセージが届きました。



2) 鹿児島県「こまどり保育園」東北の“どんぐり”を見送る活動

・日時：2019年5月13日(月) ・場所：同園園庭 ・日本郵政グループ：鹿児島中央郵便局 肘井総務部長さん

今年は7本のどんぐりが生長し、山田町へ送ることができました。子ども達の手でどんぐりの絆BOXへ大事に収納し、出発する郵便局のトラックに手を振りながら「お願いします」と見送りました。箱詰めの際に「大きなあれ」とどんぐりに声を掛ける子ども達の思いも一緒に届くといいなと思います。(by 有村かおり先生)



3. 事務局からのお知らせ

1) ミニ横断幕をご使用下さい。

先月、参加園にミニ横断幕（600mm×200mm）をお送りしました。

子どもたちのより良き未来を想い、積極的に自然と環境の体験活動を推進するネットワーク園の証です。園のどこかに掲示しておいていただけますでしょうか。

そして、“どんぐり”を拾ったり、苗木を植える森づくり活動の際には、記念撮影の横断幕としてご使用いただき、レポートと一緒に事務局までお送り下さい。



2) 植えた苗木を見守る活動

夏の間に、苗木と共に、苗木が植えられたフィールドの夏草も大きく育ち、まだ若い苗木たちを覆い隠してしまいます。苗木を見守る活動として、夏草刈りを実施しましょう。その際、せっかく育った苗木と一緒に刈らないよう、事前に苗木にリボンなど印をつけるなどして十分に注意してお手入れしてください。



2) 子森チャンネルをご覧下さい。

YouTubeチャンネル「子森チャンネル」では、活動が動画で配信されています。

よろしければご覧ください。

* 視聴方法：子森ネットホームページ ⇒ 子森チャンネル & 通信 ⇒ 子森チャンネル

* 右のQRコードからでもご覧いただけます。



●どんぐり博士の育苗日記(2019年9月号) ～樹木が災害を拡大？～

台風15号による千葉県内の停電被害、原因と復旧遅れに倒木があげられています。私たちの生活の場では、樹木は迷惑なものなのでしょうか？

子森ネット森林インストラクター：河内和男（どんぐり博士）



台風による被害が全国各地で繰り返されています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。さて、今回の千葉県の被害では、暴風による停電被害が特に問題になっております。その中で原因や、復旧の妨げと報道されているのが、多数の倒木でした。樹木は、災害が頻発する現在の日本において迷惑なものなのでしょうか？

本来樹木は、地中にしっかり根を張り地盤を固め、土砂災害を防ぐイメージでした。また、森には貯水能力があり、急激な洪水を防ぐともいわれています。しかし、近年の災害では、樹木が災害を拡大する要因になっています。それは、問題を抱える不健全な森が増えたためです。奥地まで進められた人工造林で、森の多様性が減少し、地盤の保持能力や保水能力が減少しています。また、管理されなくなった里山では、樹木の大型化と老齢化が進み、風での倒壊リスクを高めています。降水量が多く、夏の気温が高くなる日本の気候では、樹木や植物の生長や繁茂が活発で、少しほったらかしにされた森は、管理の手を入れるのがますます困難になります。

奥山の自然林や、野生生物のため保護されている地区など、人が手をつけず自然に任せるべき森もあります。けれど、杉や檜の人工林では、間伐や計画的な伐採などの管理により、森の多様性を高める必要があります。木を植えるだけが森づくりではありません。人と野生生物の関係、それに災害対策を考慮した森づくりが必要です。

そんな豊かな森づくりには長い時間がかかり、活動は世代を超えて取り組まねばなりません。そのためには、子どもたちに木や森を大切にする心を育んでもらう必要があります。JP子どもの森づくり運動の活動を通じて、子どもたちにそんな心を伝えていきたいと思います。